

# 【令和5年度事業報告書】

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

## I. 法人の概要

学校法人 日本リハビリテーション学舎  
理事長 山田 千鶴子 (令和4年5月30日～)  
所在地 東京都小金井市中町二丁目22番32号  
電話 042-384-1030  
HPアドレス <https://www.sigg.ac.jp/>

## II. 設置する学校

名称 専門学校 社会医学技術学院  
学院長 浅沼辰志  
所在地 東京都小金井市中町二丁目22番32号  
校地 総面積 3346.4 m<sup>2</sup>  
校舎 延床面積 3510.34 m<sup>2</sup> (構造) RC一部鉄骨構造 地上3階地下1階  
沿革 1973 東京都新宿区大久保スポーツ館内に理学療法士養成施設 (夜間4年課程) として開設  
‘75 東京都渋谷区に移転  
‘77 運営母体の法人化 (「財団法人日本リハビリテーション振興会」設立)  
‘80 東京都小金井市に校舎移転  
専門学校として認可、作業療法学科 (夜間4年課程) 開設  
‘83 理学療法学科 (昼間3年課程) 開設  
‘99 校舎増築 (新図書室、パソコン教室)  
2003 創立30周年  
‘07 夜間部理学療法学科・作業療法学科定員を各35名に増員  
‘11 昼間部理学療法学科定員70名に増員  
‘13 創立40周年  
設置母体の称号変更 (「財団法人日本リハビリテーション振興会」から「一般財団法人日本リハビリテーション振興会」に、公益法人制度改革に伴う変更)  
‘17 社会医学技術学院奨学金創設 (学院・同窓会との共同事業)  
‘18 キャリア支援室を設置  
‘19 設置母体の法人組織変更 (「一般財団法人日本リハビリテーション振興会」が、新設された法人「学校法人日本リハビリテーション学舎」に学校教育に関するすべての事業と全財産を譲渡)  
‘23 創立50周年  
作業療法学科昼間部設置認可・指定 (2025年度開設)

### Ⅲ. 役員・評議員・教職員の概要

#### 1. 理事会（令和5年4月1日～令和5年5月30日）

理事長	山田	千鶴子	（賠償責任保険加入：総支払限度額5億円）
副理事長	浅沼	辰志	（同）
専務理事	帯刀	隆之	（同）
理事	長田	一雄	（責任限定契約締結）
理事	小林	達雄	（同 締結）
理事	新田	國夫	（同 締結）
監事	大久保	孝彦	（同 締結）
監事	立道	肇	（同 締結）

（令和5年5月31日）

理事長	山田	千鶴子	（賠償責任保険加入：総支払限度額5億円）
副理事長	浅沼	辰志	（同）
専務理事	帯刀	隆之	（同）
理事	長田	一雄	（責任限定契約締結）
理事	小林	達雄	（同 締結）
理事	新田	國夫	（同 締結）
理事	宮武	剛	（同 締結）
監事	大久保	孝彦	（同 締結）
監事	立道	肇	（同 締結）

（令和5年6月1日以降）

理事長	山田	千鶴子	（賠償責任保険加入：総支払限度額5億円）
副理事長	浅沼	辰志	（同）
専務理事	帯刀	隆之	（同）
理事	長田	一雄	（責任限定契約締結）
理事	小林	達雄	（同 締結）
理事	新田	國夫	（同 締結）
理事	宮武	剛	（同 締結）
監事	大久保	孝彦	（同 締結）
監事	茅野	祐子	（同 締結）

#### 2. 評議員会（令和5年4月1日～令和5年9月6日）

評議員	浅沼	辰志
評議員	帯刀	隆之
評議員	長田	一雄
評議員	倉持	昇
評議員	武市	裕貴
評議員	伊東	弘泰
評議員	薄井	康紀

評議員 奥野 英子  
評議員 小林 達雄  
評議員 清宮 眞知子  
評議員 西村 和美  
評議員 播 彰  
評議員 溝呂木 忠  
評議員 渡邊 芳樹  
評議員 高村 浩

(令和5年9月7日以降)

評議員 浅沼 辰志  
評議員 帯刀 隆之  
評議員 長田 一雄  
評議員 倉持 昇  
評議員 武市 裕貴  
評議員 伊東 弘泰  
評議員 薄井 康紀  
評議員 奥野 英子  
評議員 小林 達雄  
評議員 清宮 眞知子  
評議員 西村 和美  
評議員 播 彰  
評議員 高村 浩  
評議員 上野 節子  
評議員 中村 伴子

### 3. 理事会会議記録

(1) 第12回理事会 令和5年5月31日

議案審議事項

- 第1号 令和4年度事業概要報告及び決算報告について
- 第2号 監事監査報告について
- 第3号 理事の任期満了に伴う後任者の選任について
- 第4号 監事の任期満了に伴う後任候補者の選出について
- 第5号 評議員の任期満了に伴う後任者の選任について
- 第6号 評議員の任期満了に伴う本法人職員からの後任候補者の推薦について

以上1号から6号まで承認された。

(2) 第13回理事会 令和5年5月31日

議案審議事項

- 第1号 理事長の選任、副理事長・専務理事の選定について

以上1号が承認された。

(3) 第14回理事会 令和5年9月7日

議案審議事項

第1号 評議員（寄附行為第28条第1項第3号該当者）の選任について

以上1号が承認された。

(4) 第15回理事会 令和5年9月7日

議案審議事項

第1号 作業療法学科の昼間部設置について

第2号 作業療法学科の夜間部募集停止について

第3号 学則の変更について

以上1号から3号まで承認された。

(5) 第16回理事会 令和6年3月26日

議案審議事項

第1号 中期事業計画案（2024～2028年度）について

第2号 令和5年度補正予算案について

第3号 令和6年度事業計画案について

第4号 令和6年度収支予算案について

第5号 役員・評議員の報酬額の改定について

第6号 教員の変更について

第7号 役員賠償責任保険の継続加入について

以上1号から7号まで承認された。

4. 評議員会会議録

(1) 第12回評議員会 令和5年5月31日

議案審議事項

第1号 令和4年度事業報告及び決算報告について

第2号 監事監査報告について

以上1号から2号まで承認された。

(2) 第13回評議員会 令和5年5月31日

議案審議事項

第1号 評議員の任期満了に伴う後任者の選任について

第2号 理事・監事、評議員に関する報告

第3号 理事の任期満了に伴う後任者の選任について

第4号 監事の任期満了に伴う後任者の理事長選任の同意について

以上1号から4号まで承認された。

(3) 第14回評議員会 令和5年9月7日

議案審議事項

第1号 作業療法学科の昼間部設置について

第2号 作業療法学科の夜間部募集停止について

第3号 学則の変更について

以上1号から3号まで承認された。

(4) 第15回評議員会 令和6年3月26日

議案審議事項

- 第1号 中期事業計画案（2024～2028年度）について
- 第2号 令和5年度補正予算案について
- 第3号 令和6年度事業計画案について
- 第4号 令和6年度収支予算案について
- 第5号 役員・評議員の報酬額の改定について
- 第6号 教員の変更について

以上1号から6号まで承認された。

#### 5. 教職員の概要（令和5年4月1日現在）

学 院 長	1名（常勤）
副学院長	1名（常勤・専任教員兼務）
キャリア支援室長	1名（常勤・専任教員兼務）
専任教員	19名（常勤・副学院長、キャリア支援室長を除く）
兼任教員	24名（主な非常勤講師）
事務職員	11名（常勤）

## IV. 専門学校社会医学技術学院 事業報告

### 1) 重点課題の実施状況等

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、授業はコロナ禍以前の状態に戻すことができました。また、体育祭やふくろう祭などの行事も再開いたしました。しかし、学生主体のこれら伝統行事の復活には、教職員の力添えも必要となりました。

学院運営の面では、全学科で定員割れとなり、定員確保に向けたトライアルの年となりました。

#### 【学院】

- ・2024～2028年度中期事業計画を検討・策定いたしました。
- ・募集活動として、ガイダンス等を継続的に行い、計109校に実施いたしました（資料①）。また、学内における学校説明会及びイベントは、試行錯誤しながら対面で実施いたしました（資料②）。
- ・令和6年度入学試験から高校指定校の数を従来の5校から、入学実績のある22校に拡大した結果（資料③）、入学者は前年度の3名から5名増加しました。高校推薦入試による入学者は16名で前年度より10名減少いたしました（資料④）。今後、高校との連携強化が必須になると考えています。
- ・大学の指定校入試は現在12大学の指定学部を対象としています。令和5年度は東京女子体育大学と指定校推薦にかかる協定書を取り交わした他、従来からの大学3学部にも推薦提携書を受け取っていただき、各大学の在学生に周知し、進学希望者を推薦いただくことになりました（資料⑤）。
- ・30回目となる臨床実習指導者向け研修会を実施しました。（資料⑥）。新カリキュラムにおける臨床参加型臨床実習（CCS）においては、同時に複数の学生指導が推奨されており、現場で実践されている先生に講義をしていただきました。
- ・令和5年の創立50周年事業は、同窓会の協力も得て成功裡に終わることができま

した。

- ・入学時基礎力テストを導入して2年目。学生個別指導の資料として、またアンケート結果からは入学動機や学修評価などに注目し教育内容への反映など活用方法について検討を行っていきます。

#### 【理学療法学科】

- ・令和4年度夜間部昼間部とも定員割れに陥った状況を鑑み、渉外担当に専任人員を提供して対応しましたが、今年度も定員に満たない結果となりました。
- ・指定規則改正に伴う新しいカリキュラムが昼間部、夜間部全ての学年に適応になった年でした。夜間部4年生は一年次からパンデミックに見舞われた学年でしたが、国家試験では十分な結果を示しました。既卒者への国家試験支援に関しても、取りまとめ不在の中、学科メンバーで補い、合格率50%を超える結果を残すことができました。
- ・臨床実習教育では、アンプロフェッショナルな行動により指摘を受けた学生はなく、すべての学生が実習を修了しました。新たに導入した社医学版「臨床実習教育」が、順調に推移していると思われます。
- ・新たに「初級パラスポーツ指導員取得認定校」としての授業を設定し、無事達成することができました。この授業の中には、地域の障害者当事者との交流する機会も設けることができました。
- ・労務管理に関して、ワークライフバランスを念頭に、勤務間インターバルを導入し、時間外勤務時間が前年度比、すべての月で減少しました。

#### 【作業療法学科】

- ・定員割れを改善するため、高校との連携強化やOTイベントの実施などの取り組みを行ってきましたが、入学生は前年度より7名減の16名となりました。
- ・昼間部開設準備室主導により都から昼間部開設の承認を受け、実習地、外来講師の確保、内部講師の調整、カリキュラム・時間割等のシミュレーションをすることができました。
- ・昼間部の入学定員を満たすための新たな入試制度を模索し、学科独自のAO入試を展開する準備を進めました。また、応募者確保のためのイベント・高校訪問等に人員を配置しました。
- ・さまざまな委員会活動にて学院業務に貢献いたしました。特に、地域に向けた介護職セミナーや一般市民向けの介護講座の企画運営で、大きな役割を果たせました。
- ・国家試験では在学生は2年連続100%の合格率達成を果たすことができました。スタッフの激励指導、学生の頑張り、学院全体の勢いある環境づくりが功を奏したと思います。この流れはすでに新年度へと引き継がれています。

#### 【事務局】

- ・前年度導入の大型モニター等を授業で有効に活用することができました。
- ・学生ロッカーの段階的入れ替えおよび玄関エントランスの改装など、アメニティの向上を図りました。
- ・スムーズな学生対応および業務効率、就業環境、セキュリティ向上を目的に事務室のレイアウト変更を行いました。

- ・昨年度に引き続き高等教育の修学支援新制度の対象校に認定され、24名の学生が利用いたしました。
- ・専門実践教育訓練給付制度の認定講座（理学療法学科昼間部）は、29名の学生が利用いたしました。

## 2) 今後の取り組みについて

- ・ホームページ（HP）等を用いた広報・宣伝活動と、オープンキャンパス、高校・大学訪問などの一体的な学生募集活動により応募者を増やす対策を強化してまいります。
- ・理学療法学科夜間部では、セカンドキャリアを応援するため昼間働きながら夜学ぶという夜間部の特色を活かした教育内容を引き続き検討いたします。また、理学療法学科昼間部にあっては就労経験のある方に教育訓練給付による短期間での資格取得を広く周知いたします。
- ・作業療法学科昼間部の受験者増のため、作業療法の魅力や職業としての将来性をアピールする多様な方策を実施します。
- ・参加型臨床実習の確立に向け研修会の内容と実施方法について検討を行ってまいります。
- ・ICTを活用した遠隔授業やクラス運営の実用的な活用を模索し、遠隔授業のメリット・デメリットを見直し整備した形での運用を試みます。
- ・学生の心身面の問題に対して担任、学科、心理カウンセラー、必要に応じて関係機関と連携し対応いたします。
- ・FD活動による、教員の教育活動や教育内容のさらなる充実により、確実な資格取得に向けた取り組みの強化および留年率・退学率の減少を図ります。
- ・業務の効率化を進め、残業の減少を図ります。
- ・同窓会との共同による卒後教育の実施をはじめとした、具体的な連携の在り方を確立してまいります。
- ・学生用ロッカーの残り入れ替え、講義教室の環境整備など、学習及び利用環境向上を行ってまいります。

## 3) 学生の状況

①在籍学生数(令和5年5月1日現在:休学者を含む(かっこ内は前年度当初との増減))

資料⑦参照

	1年	2年	3年	4年	合計	充足率
(夜)理学療法学科	33(-7)	34(-2)	35(-5)	30(-5)	132(-19)	94%
(夜)作業療法学科	26(0)	25(0)	16(-9)	24(+4)	91(-5)	65%
(昼)理学療法学科	69(-11)	74(+6)	63(-7)	—	206(-12)	98%
合計	128(-18)	133(+4)	114(-21)	54(-1)	429(-36)	88%

②退学者数 令和5年5月2日～令和6年3月31日(カッコ内は前年度)

	1年	2年	3年	4年	合計
(夜)理学療法学科	3 (4)	0 (3)	3 (5)	1 (0)	7 (12)
(夜)作業療法学科	1 (3)	3 (6)	1 (0)	1 (0)	6 (9)
(昼)理学療法学科	6 (6)	1 (0)	0 (2)	—	7 (8)
合計	10 (13)	4 (9)	4 (7)	2 (0)	20 (29)

※主な退学の理由 進路変更15名、体調不良2名、経済的理由2名、その他1名

③休学者数(カッコ内は前後期とも休学の者)

	1年	2年	3年	4年	合計
(夜)理学療法学科	4(3)	3(0)	4(3)	2(1)	13(7)
(夜)作業療法学科	0(0)	5(3)	5(1)	2(1)	12(5)
(昼)理学療法学科	5(2)	7(3)	4(3)	—	16(8)
合計	9(5)	15(6)	13(7)	4(2)	41(20)

※主な休学の理由 留年したが当該学期履修済みのため10名、体調不良7名、進路変更9名、経済的理由12名、その他3名

#### 4) 行事等

(1) 入学式 令和5年4月5日(水)

(新型コロナウイルス感染防止のため、規模を縮小して実施)

(入学者) 理学療法学科 夜間部(第51期) 28名入学  
 作業療法学科 " (第44期) 23名入学  
 理学療法学科 昼間部(第41期) 62名入学

(2) 三科合同行事 令和5年5月20日(土) ウォークラリー

(3) 学生健康診断 令和5年5月30日(火)

(4) 体育祭 令和5年6月3日(土)

(5) 文化祭 令和5年11月5日(土)

(6) 学校説明会等(令和5年4月～令和6年3月) ※資料②

学校説明会(実施回数22回・参加者数193名)

入試ワンポイントアドバイス(5回・49名)

合同体験授業(4回・49名)

夜間部合同授業見学(6回・17名)

理学療法学科 夜間部授業見学(4回・11名)

理学療法学科 昼間部授業見学(3回・26名)

理学療法学科 体験授業(4回・14名)

作業療法学科 授業見学(2回・10名)

作業療法学科 ミニ講座(1回・1名)

作業療法学科 医療専門職の目指し方(6回・9名)

作業療法学科 転職のススメ(4回・7名)

作業療法学科 ピンポイント講座(1回・1名)

(7) 令和5年度学生募集(令和5年6月～令和6年3月)

入学試験（AO・社会人・高校推薦・指定校推薦・一般・特別）

理学療法学科	夜間部	応募者合計	27名	入学決定者	23名
作業療法学科	〃	〃	18名	〃	16名
理学療法学科	昼間部	〃	68名	〃	61名

(8) 理学療法士・作業療法士 国家試験 令和6年2月18日

理学療法学科	夜間部	29名受験	29名合格	(合格率	100%)
作業療法学科	〃	23名	〃 23名	〃 (	〃 100%)
理学療法学科	昼間部	60名	〃 59名	〃 (	〃 98.3%)

全国平均合格率：理学療法士 89.2%、作業療法士 84.1%  
(うち新卒者 理学療法士 95.2%、作業療法士 91.3%)

(9) 卒業式 令和6年3月16日(土)

理学療法学科	夜間部	卒業生(第48期)	29名
作業療法学科	〃	卒業生(第41期)	23名
理学療法学科	昼間部	卒業生(第39期)	61名
合計			113名

5) 累計卒業生数(令和6年3月31日現在)

理学療法学科	夜間部	1,434名
作業療法学科	〃	1,074名
理学療法学科	昼間部	1,548名
合計		4,056名

## V. 小金井市委託事業 事業報告

介護予防の普及啓発に寄与することを目的に、小金井市より地域リハビリテーション活動支援事業を受託し、市内の高齢者向け介護予防体操会場へのリハビリテーション専門職の派遣を実施しました。

## VI. 財務の状況について

1) 資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入・支出の内容を明らかにし、且つ支払資金の収入・支出の顛末を明らかにするものです。令和5年度の資金収支計算書の概要は次のとおりです。

### ①収入の部

学生生徒等納付金収入は、令和4年度(5億2,790万円)に比較し、学生数の減少により4,727万円の減額となりました。授業料前受金収入、実験実習料前受金収入、施設設備資金前受金収入の予算時との相違は、学費を分割払いせず、一括納入する学生が予想より多かったために生じています。私学財団(退職資金)交付金収入は、退職者3名分、2,312万円の交付金収入となります。また、学生の親族より200万円の寄付を受け、一般寄付金として計上しております。

### ②支出の部

教育研究経費支出の新聞雑誌購入費支出は、医学雑誌の電子書籍移行に伴う書籍

の見直し等により173万円の減少となりました。入試関係費は入学試験作成を外注したことに伴う増が74万円程出ております。管理経費支出のうち、広報費は、次年度支払いなどにより158万円減少となり、支払手数料は、規程変更や行政手続き等の委託費増加等により75万円の増加となっております。

2) 事業活動収支計算書は、当該年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容と基本金組入後の均衡の状態を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であることを示すものであり、いわば企業会計の損益計算書にあたるものです。単年度の学校法人の収支状況を見るうえで最も基本的な指標である事業活動収支差額比率は4%で、前年度の11%台から数値を下げました。

3) 貸借対照表は、年度末における資産・負債・純資産（基本金及び繰越収支差額）を把握するもので、学校法人の財政状態を表示するものです。

#### ①資産の部

土地、建物、機器、図書等の有形固定資産は、エントランス改修による建物増加分235万円、電子黒板等の教材機器取得による教育研究用機器備品増加分380万円、学内サーバー更新等による管理用機器備品増加分2,121万円がありましたが、減価償却に伴う資産の目減りにより、前年度末から1,950万円減少して、11億5,290万円となっています。

特定資産について、令和5年度は校舎建替の原資となる施設拡充引当特定資産の繰入を行いませんでした。退職給与引当特定資産は退職者3名分の資産取崩があり、特定資産総額は前年度末から292万円減少して3億5,776万円となっています。

資産の合計は前年度より1,529万円増え、24億2,763万円となりました。

#### ②負債の部

前受金の減少等により前年度より585万円減少し、4億853万円となりました。

以上の結果、総資産から総負債を差し引いた令和5年度末の純資産の部は、前年度より2,115万円増加して、20億1,910万円となりました。

以上

令和6年5月1日

学校法人 日本リハビリテーション学舎

# 2023 年度応募者対応委員会活動報告

2024 年 5 月 16 日  
応募者対応委員会

2023 年度の応募者対応委員会の活動について以下に報告いたします。

## 1. 委員会主催イベント実施について

2023 年は年初より各イベントの目的を下記の様に明確化してスタートを切った。

### ①学校説明会

PT・OT の仕事を知ってもらう事を目的とする。

### ②学科の授業見学

実際の授業を見てもらい、学校生活のイメージの明確化・学科の特徴を知ってもらう。

### ③入試ワンポイントアドバイス

入試に向けたサポートを行うことで、受験しやすい印象を持ってもらう。

昨年度実施した主な応募者対応イベントは以下のとおりである。

#### 1) 学校説明会

12 回実施（午前・午後実施計 22 回）参加者数 193 名

\*2022 年度 12 回実施（4 月-翌年 2 月）参加者数 261 名

#### 2) 入試ワンポイントアドバイス

5 回実施 参加者数 49 名

\*2022 年度 9 回実施（6 月-翌年 1 月）参加者数 98 名

#### 3) その他

①合同体験授業 4 回 ②夜間部合同授業見学 6 回 ③PT 夜間部授業見学 4 回

④PT 昼間部授業見学 3 回 ⑤理学療法学科体験授業 4 回 ⑥作業療法学科授業見学 2 回

#### ⑦OT 学科ミニイベント

ミニ講座 1 回、医療専門職の目指し方 6 回、転職のススメ 4 回、作業療法ピンポイント講座 1 回

①～⑦ 参加者数 194 名

⑧近隣の養成校 5 校による「看護・医療系 おしごと体験会」を、多摩地区高等学校進路指導協議会後援により本校で2024年3月27日実施。参加者96名)

⑨在校生の出身高校訪問・高校教員の授業参観を計画（在校生のいる近隣の19校に案内したが参加者は無し）。

## 2. 全体の参加者の変化について

昨年に続き、2023 年度もすべてのイベントを対面で実施した。

全イベントの参加者数は 387 人（同伴者含め 528 人）。内訳は、高校 3 年生 193 人（前年度 229 人）、大学生 28 人（同 46 人）、社会人 101 人（同 150 人）であった。

昨年度と比較して全体で 100 名程度の減少が見られた。減少の背景として、近年では高校生は大学への進学のしやすさが影響したこと、高校教員も専門学校より大学へ

の進路を進める傾向にある点が考えられる。社会人は有効求人倍率の高さもあり、転職や資格取得を目指す人の数自体が減少していることが考えられる。

応募者対応委員会としては、上半期のイベント参加者数が昨年度よりも減少していたことと、イベントアンケートの結果から『卒業生のお話を聞きたい』との意見が見られたことから、急遽8月26日に卒業生を招いた『夏休み卒業生スペシャルオープンキャンパス』を、9月30日に『在校生による座談会』を実施した。

これらのイベントでは高校生と社会人が最も多く来校したことから関心の高さがうかがえた。

### 3. 学生募集について

2024年度の新入生は全学科で定員割れとなった。夜間部理学療法学科でマイナス12名、夜間部作業療法学科でマイナス19名、昼間部理学療法学科でマイナス9名。合計マイナス40名（総定員の28.6%）であった。

2023年のイベント参加者数に対する出願率は概ね3割程度となっており、これに関しては例年と大きな変化はなく、単純に来校者数の減少により定員割れに至ったということが理由であると考ええる。

一方で、出願に繋がらなかった7割の方に対しては、『来校』から『出願』の間で零れ落ちているため、イベントに参加したものの本校に魅力を感じなかった、もしくは受験科目や受験の方式が出願に対してのハードルとなった可能性など様々検討できる余地がある。

応募者対応委員会としては、まずはイベントに参加された方が本校で学びたいと思えるような魅力の発信や社医学の魅力を十分に伝えるイベントの企画などの検討を行っていく必要があると考える。

### 4. 次年度の応募者対応委員会の基本方針等について

今年度、本委員会は「イベント」担当と「渉外」担当に役割分担をすることになった。事務専任の広報係が設置されたことも含め、学生定員確保への組織改編となった。

「イベント」では、業務分掌によって課せられた「学校説明会」、「体験授業」、「授業見学」、そして「職場見学会」を従来通り企画運営し、コンサルタントのご指導のもと、参加者の出願率（前年度33%）を引き上げることがミッションである。

「渉外」では、従来通り、学校ガイダンス、会場ガイダンス、多摩高進、多摩専協へ情報を発信、連携をすることにより学校の認知向上を図り、「学内イベントの参加」、「入学試験の受験」への後押しをすることが目的である。

両者とも、広報係と連携し、データに基づいた戦術を実施していきたいと考えている。

以上

# 2023 年度国家試験報告と今後の対策

2024 年 4 月 2 日  
国家試験対策特設委員会

## 1. 概要

2020 年から続いた COVID-19 による種々の感染対策はようやく解除され、学生同士で学習し合うような国試対策を存分に実施できるようになった。それまでに蓄積してきたノウハウを「社医学国試対策マニュアル」として総括し、各学科とも足並みをそろえて実施する年ともなった。

結果は 2 学科で 100%，1 学科についても 1 名のみを残して合格となり、いずれも全国新卒者平均をも上回ることができた。年度当初に計画した国試対策を徹底して取り組むことができた効果であると分析している。

## 2. 2023(令和 5)年度 第 59 回国家試験の結果

	第59回 (R5)	第58回 (R4)	第57回 (R3)
夜間部 PT	29 名受験 29 名合格 100.0%	35 名受験 34 名合格 97.1%	18 名受験 15 名合格 83.3%
昼間部 PT	60 名受験 59 名合格 98.3%	66 名受験 64 名合格 97.0%	54 名受験 47 名合格 87.0%
既卒 PT	11-12?名受験 6 名合格 (夜4/5-6 名 70-80%) (昼2/6?名 33.3?%) 50.0~54.5%	22 名受験 11 名合格 (夜 3/7 名 42.9%) (昼8/15 名 53.3%) 50.0%	21 名受験 5 名合格 (夜 2/9 名 22.2%) (昼 3/12 名25.0%) 23.8%
PT 全国平均	89.2% (新卒 95.2) (既卒 33.4)	87.4% (新卒 94.9) (既卒 49.0)	79.6% (新卒 88.1) (既卒 37.5)
O T	23 名受験 23 名合格 100.0%	19 名受験 19 名合格 100%	21 名受験 19 名合格 90.5%
既卒 OT	4-6?名受験 1 名合格 16.7~25.0%	7 名受験 1 名合格 14.3%	9 名受験 4 名合格 44.4%
OT 全国平均	84.1% (新卒 91.3) (既卒 33.3)	83.8% (新卒 91.3) (既卒 44.3)	80.5% (新卒 88.7) (既卒 34.5)

### 3. 社医学版国試対策プログラム（\*は重点/ポイント項目）

- 1) 担任による国試対策マネジメント
  - ① 最終学年年度開始前の早期からの国試ガイダンス
  - ② 年間・とくに\*週間学習計画の提示と学生との共有
- 2) 学生個別の指導教員の配置とその\*担任マネジメント
- 3) 模試による反復学習（学内模試，業者有償模試，農工大 1 日模試，公開模試）
- 4) 学生主体の勉強会のマネジメント
  - ① グループワーク（\*グループ構成に担任による工夫）
  - ② 分野別勉強会（各学科とも担当教員による要点の整理，10 回前後シリーズ）
  - ③ 学習缶詰め部屋（教員室前の大会議室）(\*模試下位層の選抜者を集めた集中学習)
- 5) 自己学習用「模試セットとスマホ利用問題ドリル（リハドリル<sup>®</sup> iPEC)」
- 6) 有償アプリ利用による国試過去問の編集と配布教材

### 4. 第 59 回国家試験について

理学療法士・作業療法士国家試験ともに，X2 問題の減少，過去類似問題の多用が特徴として見られた。また，実地問題における長文問題など読解力が問われるようなことも話題に上っていない。

令和 6 年から「理学療法士作業療法士国家試験出題基準」が改訂された。新規カリキュラムの救命救急や薬物療法，がん，フレイルなどのキーワードが早速盛り込まれた。授業の整備はなされており受験生らには対応できていたものとみている。

### 5. 2023 年度取り組み状況とまとめ

ここ数年来の取り組みを「社医学国家試験対策マニュアル」として総括した。本マニュアルを年度当初に共有し実施してきた。

最も中心的な対策としてグループワークの運用について注力してきた。これまでコロナ禍の影響を受け制約があったが今期は昼間部を中心に活発に運用することができた。学生のアクティブラーニング促進のためにグループ編成に成績上位層と下位層を組み合わせる等の工夫を施した。夜間部についても期間後半ではグループワークによるアクティブラーニングの動きが見られていた。

グループワークの効果について，1 学年早期からのグループワーク演習・体験の導入が徐々に功を奏してきていることも想像される。今後も継続して学生同士で教え教わり合う学習形態を展開・発展させることが重要と位置付けている。

また，学生個別対策の充実も課題として挙げられる。今期一部の試みに効果を認められ

たことも踏まえ、また外部補助教員の活用なども含め重点項目としていく。

既卒生対策に関して、今期は 8 浪生が合格を成し遂げ執念とも言えるが、原則としては卒後 3 年以上の浪人は実質的に合格困難となる。当人のキャリア形成との観点も尊重し、進路について多様な視点に基づく面談が必要である。これらの点も含め次期課題として対策を充実させていきたい。

以上